

21.9.30

鹿大の チカラ

KAGOSHIMA UNIVERSITY

生涯学習
教育研究センター

「しゅぱしゅぱ」「もくもく」。何やの意味不明な言葉が講座のタイトルに並ぶが、これらは松野修教授が手がける大道仮説実験の名称だ。「しゅぱしゅぱ」は真空ポンプを使った実験で、「もくもく」はドライアイスを使った実験のこと。年数回ある実験講座は、幅広い世代が参加する人気講座の一つだ。

科学実験講座

松野修 教授(57)



学卒業後、愛知県内で小学校教諭や大学非常勤講師などを務め、「楽しい授業」に目覚めた。科学の研究者とは違う、子どもから大人まで誰でも興味の持てる実験講座をテーマに、ユニークな仮説実験手法を編み出した。

軽妙な語り口とその講義内容から、鹿児島のやんじろう先生」と親しまれている。「生涯教育研究センターは、地域で小学生親子を対象にした

活動の軸となるのが仮説実験講座。7月下旬の2日間、霧島市で小学生親子を対象にした

躍など)で、サイエンス分野に注目が集まっている。この流れは県内でも顕著で、これまで定員割れだった科学講座に今年は定員以上の応募があつたケースも。「でんじろう先生などを見て、科学を伝えることを魅力に感じるような若者がもっと増えれば、科学立国日本にとっても面白い」と話す。

活動の軸となるのが仮説実験講座。7月下旬の2日間、霧島市で小学生親子を対象にした

夏休み期間中は7月下旬から8月上旬にかけて、鹿児島市立科学館や鹿児島大でも同様の講座を実施した。

松野教授は毎回、子どもが樂しんでいるかどうかよりも、親がどれだけ満足しているかを見ているという。「講座終了後のアンケートで『子どものために来たのに自分が夢中になりました』なんて回答があると、こちらでいるかどりかよりも、親がそれだけ満足しているかを見ている」という。

「科学は知的エンターテインメント。誰にも興味を持つてもらえる仮説実験」という形で、科学の素晴らしさを伝えたい」と専門は科学史と科学教育。大

「親子孫でたのしい仮説実験講座」は、参加費(実験セット代を含む)が4200円だったにあつた。真空ポンプを使った仮説実験などに、参加した親子は大はしゃぎ。子ども以上に大人がはまり、参加した親子が2日目に祖母を連れてきたことも日本にとっても面白い」と話す。

夏休み期間中は7月下旬から8月上旬にかけて、鹿児島市立科学館や鹿児島大でも同様の講座を実施した。

松野教授は毎回、子どもが樂しんでいるかどうかよりも、親がどれだけ満足しているかを見ているといふ。「講座終了後のアンケートで『子どものために来たのに自分が夢中になりました』なんて回答があると、こちらでいるかどりかよりも、親がそれだけ満足しているかを見ている」という。

8月に鹿児島大であった「親子孫でたのしい仮説実験講座」。祖母と孫が偏光板を使った実験を楽しんだ(松野教授提供)

ここ数年、科学を題材にしたテレビ番組や「でんじろう先生」をはじめとする科学者の活

「今後は学生以外に、講座で科学の楽しさを学んだ社会人や夫婦にも鹿大楽知ん研究会に参加してもらい、今度は伝える側として活躍してもらいたい」(多島園研究センター、生涯学習教育研究センター編は安斎新一、白井伸洋が担当しました)

世代間わざ 楽しさ伝授



躍など)で、サイエンス分野に注目が集まっている。この流れは県内でも顕著で、これまで定員割れだった科学講座に今年は定員以上の応募があつた。真空ポンプを使った仮説実験などに、参加した親子は大はしゃぎ。子ども以上に大人がはまり、参加した親子が2日目に祖母を連れてきたことも日本にとっても面白い」と話す。

活動の軸となるのが仮説実験講座。7月下旬の2日間、霧島市で小学生親子を対象にした

夏休み期間中は7月下旬から

8月上旬にかけて、鹿児島市立

科学館や鹿児島大でも同様の講

座を実施した。

松野教授は毎回、子どもが樂

しんでいるかどうかよりも、親

がどれだけ満足しているかを見

ているといふ。「講座終了後の

アンケートで『子どものために

来たのに自分が夢中になりました』なんて回答があると、こち

らでいるかどりかよりも、親

がどれだけ満足しているかを見

ているといふ。

「今後は学生以外に、講座で

科学の楽しさを学んだ社会人や

夫婦にも鹿大楽知ん研究会に参

加してもらい、今度は伝える側

として活躍してもらいたい」

(多島園研究センター、生涯学

習教育研究センター編は安斎新

一、白井伸洋が担当しました)